



第四章 資料



アンケート用紙

令和4年3月10日

第32回東京都平和の日記念行事アンケート

本日の東京都平和の日記念行事について、アンケートにご協力ください。

■ 3月10日が東京都平和の日であることについて

- a. 知っていた b. 知らなかった

■ 記念行事への参加回数について

- a. 初めて b. 2～10回 c. 11～20回 d. 21回以上

■ 本日の記念行事について

1 「記念式典」についてご感想をお聞かせください。

- a. 大変良かった b. 良かった c. 普通 d. 悪い

(ご意見: _____)

2 第二部「記念公演」についてご感想をお聞かせください。

- a. 大変良かった b. 良かった c. 普通 d. 悪い

(ご意見: _____)

3 今後の「東京都平和の日記念行事」についてお聞かせください。

a. 「記念式典」のみでよい(その理由: _____)

b. 「記念式典」と「記念公演」を行う(その理由: _____)

c. その他(_____)

4 この行事を何でお知りになりましたか。

- a. 広報東京都 b. 東京都のホームページ c. 知人から聞いて

d. その他(_____)

■ その他ご意見ご感想をお聞かせください。

[_____]

お歳: _____ 代

お住まい: _____ 区・市・町・村

ご協力ありがとうございました。

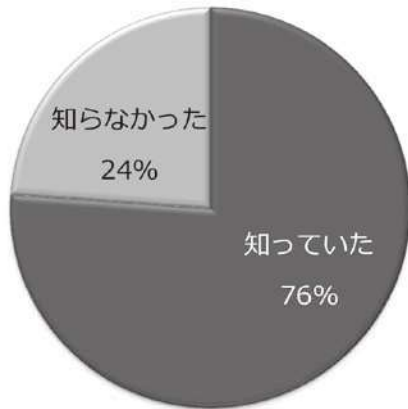
東京都

アンケート集計結果

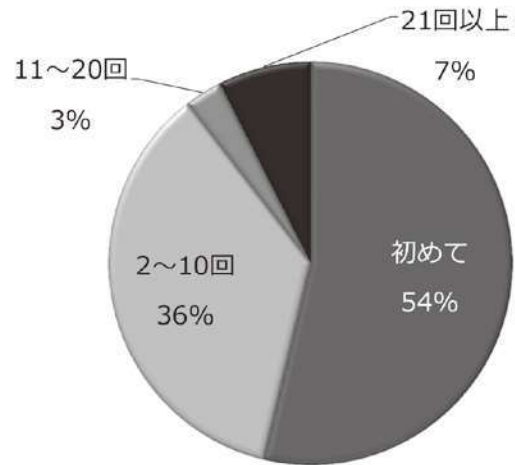


回答数：67

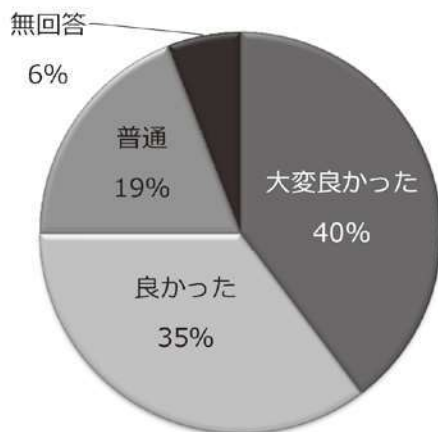
3月10日が東京都平和の日である事について



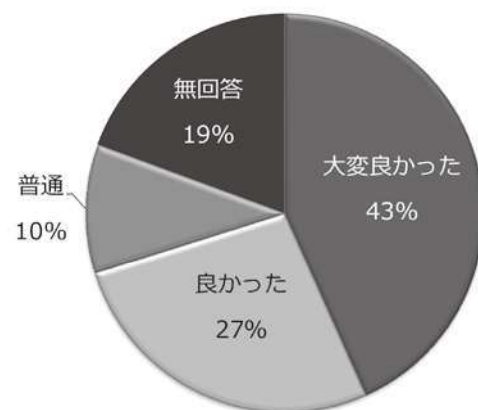
記念行事への参加回数について



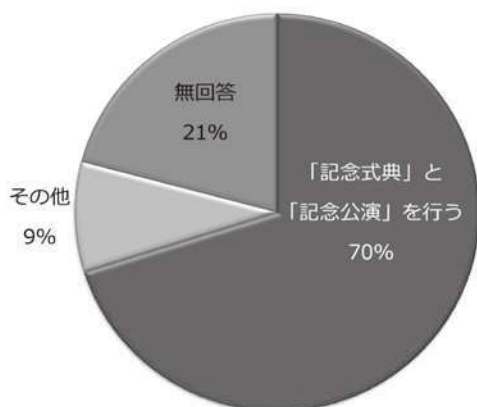
第一部「記念式典」について



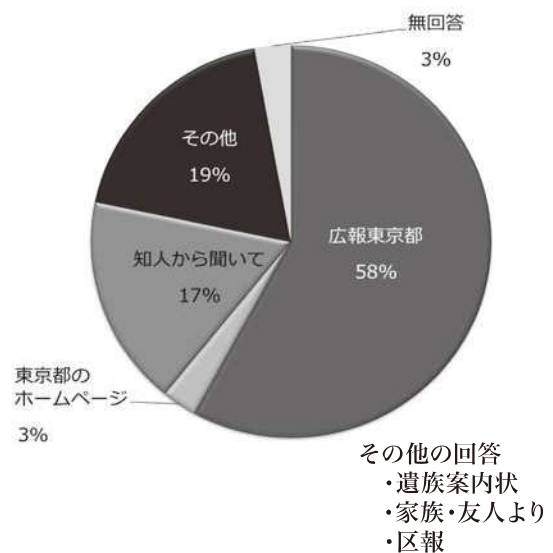
第二部「記念公演」について



今後の「東京都平和の日記念行事」について



この行事を何で知りましたか

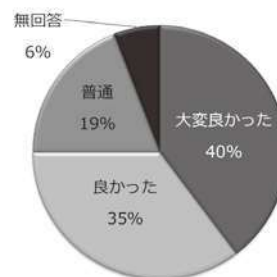


アンケート集計結果（自由意見）

自由意見

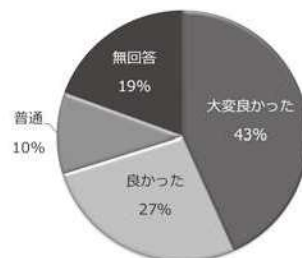
1. 第一部「記念式典」についてご感想をお聞かせください

- 今の世の中平和の日が何よりも大切であるとしみじみ思った。
- 平和の重要を自覚する為、式典により深く印象づけられた。
- 3/10をあらためて考える。
- サンマリノ共和国の方のさいごに原稿を見ずにあいさつされたのがとてもあたたかく感じました。
- 体験者のお元気なお声に元気をもらいました。
- 当時を経験した一般市民の話しを加えたのは良かった。
- 被災者代表の佐藤さんのお話が悲惨さを感じさせず、良かったです。
- 従来と異なった体験者の発表が興味深かった。
- 力強い未来へのメッセージが聞けて良かったです。被災者代表の方からは空襲そのものの状況を伺いたかったです。
- 私のおばも中島飛行機や昭島に学徒動員していたので、きいていてよくわかりました。
- 1回目は誰がやったんでしょうね。皆様のごあいさつ良かったです。
- 今回の被災者代表の方の挨拶は如何のものか？
- 簡素で。
- 以外とシッソ、カンタンでした。
- とくに良いところもなく、形式だけで意義がうすい。
- もう少し体験談なども聞きたかった。コロナ禍で小規模なのはしょうがないがもう少し大がかりにやってもいいのでは。
- 戦災で苦しんだ人の話が欲しかった。



2. 第二部「記念公演」についてご感想をお聞かせください

- 花の街よかった！
- 式典に加えて公演を聴き、祈りの念を持つことができた。
- クラシックファンですのでよかったです。
- いつも楽しみにしているコンサートです。去年、おとしは無くて残念でした。
- すばらしい音色をありがとうございました。
- 皆が良く知っている曲も入れては。
- 4人での演奏もよかったです。
- 心が洗われました。特にノクターン感動しました。
- ようやく復活されたのですね。良かったです。
- 一生懸命弾いていた。
- ずっとコンサートなどは行けてないので、久しぶりにゆっくりできました。
- さみしさの後に、記念公演で気持ちが軽く帰れます。



アンケート集計結果（自由意見）



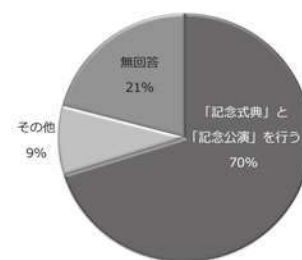
3. 今後の「東京都平和の日記念行事」についてお聞かせください

b 「記念式典」と「記念公演」を行う

- 良いと思うのでbにしたのですが家が遠いので帰りました。
- 時間的にちょうど良いと思う。
- 生の演奏を聞く事がない。ステキな時間です。
- 祈りは心の豊かさから生まれます。従って両方を開催することの意義があるのです。
- 式典のみでは印象がうすいので公演があることで心に残る。
- 3/10を心にきざむ。
- なじみのある曲を生の演奏でまじかに聞くことが出来良かった。
- 両者とも素晴らしいからです。
- 思い出に残る。
- 式典と、過去現在共に必要な精神的なごみがある。
- その方がいいと思うので。
- 音楽は良い時間になるので。
- 音楽演奏により心がなごみました。
- 式典のみでは味気なく音楽がとても良かった。
- 心がなごむ。
- 東京都交響楽団のコンサートはとても楽しみ。
- 音楽は人々の心がほっこりする。
- 記念公演がなくなるのは味気ないです。
- 演奏会は心穏やかになって良いと思います。
- 一年に一度のことだからやった方がよい。
- 音楽には「鎮魂」の思いが込められているものです。是非共にやるべきと思います。他に平日ですと難しいかもしれませんが、若い人にもっと来てもらう為に、実力派の歌手に平和に関する歌をうたってもらうのはどうでしょう。
- 年齢層が年を入変り、個人の回想も異なるため。
- aのみでは出席者が少なくなると思う。
- 参加者の為。
- 公演があることで気を休められるから。
- 日頃、経験できないので嬉しいです。
- 音楽は心をやすらかにします。
- 楽しい部分があってもよい。
- 心をホッとする為。
- 来た甲斐がありました(複数回答あり)。
- 演奏をきけてよかったから

c その他

- 戦争とは何か知らない人達に伝える事は大事と思う。
- 式典は3月10日に近い休日に変更して子供も参加させてもいいのではないかと(引き継いでいく)
- 当時の状況をより一層伝えてもらいたい。
- このような平和の式典、きて良かった



アンケート集計結果（自由意見）

■その他意見、感想

- 戦時中のことを覚えている世代が段々少なくなっているのに、平和の有難さを知らせてゆくこういう行事をぜひ続けて行ってもらいたいと思う！
- とうとう夫が亡くなりました。妻一人で来ました。一家が本所で亡くなり、たった一人残った夫です。今日は池袋の雑司が谷墓地で夫に報告してから伺いました。本当に有難うございました。皆様大変でしたのに御親切にありがとうございました。
- 貴重な経験をありがとうございました。
- 誰に何を伝えたくてこの平和の日を決めたのか、もう一度考えなおした方が良いです。このままただのおかざり行事でしかない。戦死した方に失礼です。
- ふだん人ごとのように感じていた戦争を映像で目にして、平和のありがたみを身にしみて感じています。早く世界が平和になります様に。
- 被災者代表の佐藤さんのお話は当時の娘さんの心情を率直に話していただき感動しました。感謝しております。
- もっともっと3月10日の事を世の中に知らせるべき。日本、東京、広島、長崎など、声を出せる大切な存在だと思う。
- ウクライナへ侵攻したロシアの問題で世界中が批難している最中、本日の記念行事は大変有意義なもので平和を強く願うばかりです。ウクライナの人々に自由と平穏を！
- 又戦争がおきている。知らない人もかんがえなければいけない事と思う。
- 戦争体験者の話は良かったです。存命中に生の声を聞きたいと思いました。
- コロナのため2年これなかった。
- 戦後の処理を終える責任は国にあるのだろうが、都も協力されるのが良いと思います。
- ①私は訪問介護の仕事をしています。91才の方に3人入っていますが、今日お話しされた佐藤様は頭もお身体も大変お元気でおどろきました。
- ②空襲に直接あわれた方のお話もききたかったけど、もう皆さん高齢になって生きておられる方も少なくなっているのじゃないかな。
- 今回、3月10日の式典にくるのは2回目ですが、色々と考えさせていただきました。
- 若い人が戦争を知らないのに戦争のことを伝えたい。高齢になって最後の参加となるかもとの思いでした。これからも平和に尽力される都政をお願いします。
- 戦争のおろかさを今後も語りついで行く為にこれからも誰もが出席できる様に工夫、努力をして頂きたいとお願いたします。
- 私達が今豊かに暮らしているのは戦争でぎせいになった方々のお陰でありその事を認識する良い機会であったと思います。折に触れこのような日にふり返ることも良いと思いました。
- 毎年被災者の方の体験のお話は、感動します。特に今年は92才の方のお話でしたが、悲しいばかりでなく15歳の少女の楽しかった記憶のお話もあり嬉しい気持ちになりました。
- 大人の行事だけではなくて、子供も参加してもらいたい。平日でなくても3月10日に近い休日でも良いと思います。子供に引き継いでいく事も必要かと思えます。(コロナの事を考えた上で)
- 92才の佐藤様の体験談、ソカイ中でありながら楽しさを見いだしたお話大変よかったです。心にシミました。
- 年令的にも大変ですが、亡くなった人その他忘れないようにする為に式典は大切です。
- 良い記念日。3月9日～10日は子供小4で体験し目に焼きついている。
- わすれがちの世の中本当に忘れてもらいたくないこの戦争今回の事で思い出していましたよ。子供達にも話しておこうと思います。
- 時間の長さもちょうど良。

アンケート集計結果（自由意見）



- 人工的な未曾有の大惨事を経験された現在生き残っている方々の貴重な証言をぜひ永久に記憶できるよう、身近に残していく事を考えてもらいたい。私も伝承のみの経験なのでどのように子や孫に伝えていくべきか悩んでおります。
 - 私の故郷長野県に学童疎開していた方々との「ふるさとの集い」が今でも続いています。疎開していた一人の方のお話です。「戦争が終わって都内に列車で戻り、駅から出た時他の子には親や親せきが迎えに来てくれていたが自分には一人も迎えがいなかった。ぼう然と立ち尽くすのみ」空襲で家族全員が亡くなってしまっていたのです。私はその時代の人間ではありませんが、こうした証言は永く後世まで伝えていかなくてはと思います。
 - 戦争、学徒動員一楽しかった思い出だけ？それでよいのか？
 - 戦後77年を迎え、二度戦をくりかえしてはいけない。忘れてはならない。
 - コロナ禍の中平和の日式典開演していただいてありがとうございます。とてもためになりました。
 - 祖父の先妻さんとお子さんが東京大空襲で亡くなったことは知っていましたが、最後に亡くなった場所が分からずにきました。祖母(後妻)が亡くなって、戸籍を調べていたときに亡くなった場所が分かり、やっと犠牲者名簿への申請をすることができ、今日の式典もご案内いただきありがとうございます。ありがとうございました。
 - (マイクを一人一人変わる。これは生でないと気がつきませんでした)92歳、ステキな内容、古里を思い、ツクシやセリをなつかしく。平和程、良い事はありません。コロナ、そして「ロシア」の現状と一日も早く落ちつく事を心からねがいます！ありがとうございます。
 - S20.3.10未明 B29の爆撃を受け当時6才の私は母、祖母、弟2人(父出征中)と共に家を出る時は家の前まで炎が迫っていた。はぐれない様に腰ひもを私の胴、母の手首に結び、逃げまどい明治小学校に避難した。勿論家に戻った時はあとかたもなく焼けていた。幸い私達家族は5人無事だったが近所の方は亡くなっていた。運が良く助かり今83才。空襲を境に生まれかわったと思い77才の今日。黙祷の時はその時の様子が思い出され涙がでました。招待を受け有りがとうございました。空襲被災者代表の方のお話は実体験にもとづき良かったです。健やかにして出席出来そしてお招きいただき重ねてお礼申し上げます。
- ※今ロシアがウクライナに対し無力な人に対してもホウゲキを加えお気の毒で、なす術もなく悲しいです。
- 札幌生まれ札幌育ちの私には東京がこんなにひどい歴史があったとはおどろきで涙があふれそうになりました。父はシベリアに行きました。その当時の大人をせめた記憶があります。強い者がより強くなる為の戦争に思えたからです。私は人生の最終章にきて、何をすべきかを、もさくする日々の中で、今日の行事に出会いました。小さな命だけど子供達にほこれる命で終わりたいと思います。本当にありがとうございました。
 - 当時に体験された方の貴重なお話には心うたれました。戦争体験者が現存されなくなる時世、もっともっと体験談を広く聞き、後世に残すことが重要ですね。
 - 今般のプーチンの暴挙を思うと、こうした平和の為の活動、行事が、いかにも空しい。しかし続けねば、子、孫達にその悲惨さを伝え続けなければならない。
 - 戦争が本当にうすれていくのが…知って欲しい 記念行事があることを知らない人が多い？ 平和は良いこと…でももっと知って欲しい… 兄は戦死しています。会いたいです。
 - 今ウクライナで多くの人が苦しんでいるとき、体験者の話しは良くなかった。体験者でなく若い人の戦争に対する話を聞きたいです。
 - 戦争体験者の話はもう少し苦勞した方の話を聞きたかったです。
 - 92才佐藤さんのお話が聴けたのが一番来て良かったと思いました。都内の小中学生を招くとかもっと若い世代も招待した会になるといいかな。
 - 手話の pantomime してほしい。飲物がない残念。手話通訳者ありがとう！よかった。

東京都平和の日条例

平成二年七月二十日
東京都条例第九十号

東京は、今や、世界の経済社会の発展を支える大都市としての地位を占めるに至った。これは、東京の地に住み、働いてきた人々の努力の賜物である。

しかし、東京の歴史には、幾多の惨禍が刻まれている。特に、多数の都民が犠牲となった第二次世界大戦の悲惨を我々は忘れることができない。

平和は、都民すべての願いである。

東京都は、平和国家日本の首都として、世界の都市と連携し、文化交流等の推進に努め、人々の相互理解に立脚した国際秩序の形成と恒久平和の実現に貢献する責務を深く認識し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、ここに、東京都平和の日を定める。

(平和の日)

第一条 東京都平和の日は、三月十日とする。

(記念行事)

第二条 東京都は、東京都平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

(委任)

第三条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、公布の日から施行する。

Tokyo Metropolitan Peace Day Ordinance

Tokyo has now become one of the major cities to support the development of the world economy and society. This result can be attributed to its residents, who have lived and worked diligently in Tokyo. However, Tokyo recorded many disasters in its history. Of these, we will never be able to forget tragedies experienced during World War II when many Tokyo residents fell victim.

Peace is the very wish of all of Tokyo's residents.

The Metropolis of Tokyo, as the capital of peaceful nation of Japan, has decided to promote cultural exchanges in cooperation with the cities of the world. Tokyo recognizes responsibility for devoting itself to forming an international order based on mutual understanding and achieving eternal peace. Tokyo takes an oath never to repeat the horrors of war. Therefore, the Metropolis of Tokyo does hereby enact the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(The Peace Day)

Article 1 The Tokyo Metropolitan Peace Day shall be on March 10th.

(Commemorative events)

Article 2 In order to confirm the significance of peace and to promote peace-consciousness, the Metropolis of Tokyo will carry out commemorative events on the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(Delegation)

Article 3 Necessary matters related to the enforcement of this ordinance shall be fixed by regulation.

Supplementary provision

This ordinance shall come into force from the day of its promulgation.

Promulgated July 20, 1990

Tokyo Metropolitan Ordinance No.90

東京都民平和アピール

一九四五年三月十日、五十年前の今日、東京は大空襲によって、いたるところ焼け野原と化し、一夜にして十万人のかけがえない尊い命が失われました。

同じく五十年前、広島と長崎の原子爆弾は、人類がまだかつて知らなかった悲劇を地上に現出させました。

いかなる哀悼の言葉も意味を失ってしまっただけで非情かつ残酷なもの、それが戦争のもたらすあらゆる惨禍であり災害であります。

そして半世紀がたちました。戦争を知らない人々が、都民の多数を占める時代がきました。東京の姿は一変しました。廃墟だったまちには、活動力にみちた大都市に変貌しました。それは、日本が平和のもとにあつたからこそ実現できたものでした。

世界の相互依存関係がかつてないほど緊密になり、互いの協力がますます必要とされる現在、私たちは世界全体の平和なくして、幸せで安全な暮らしを営むことはできません。

いま世界は、激動の中にあつて、大きな歴史の転換の時代を迎えています。民族や宗教の対立などに起因する悲惨な地域紛争、飢餓と貧困、難民と被災者、地球環境の破壊と悪化をはじめ、人々の糧やかで満ち足りた生活をはばむ要因が、次から次に生じています。不信と対立を克服し、信頼と協調による新たな国際秩序を模索することは、地球全体にとつて緊急な課題であり続けています。国、民族、文化の違いをこえた取り組みが、今ほど求められている時はありません。

平和は、何ものにもまさつてすべての基礎をなす条件です。日本国憲法が基本理念とする恒久の平和は、私たちすべての願いであり、人類共通の目標です。

私たちは、軍縮と核兵器の廃絶を機会あることに強く訴え、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓います。日々の生活において、平和を脅かす問題に、毅然として立ち向かい、忍耐よく取り組むことを決意します。

一 私たちは、次代を担う子どもたちに、戦争の悲惨さと、それを防止することの大切さを、東京大空襲の体験などとともに語り伝えます。

一 私たちは、共に地上に生きるすべての人の人権を尊重し、差別を排し、思いやりと愛情をもって、誇るに足る地域社会をつくります。

一 私たちは、日々のくらしを注意深く見つめ、豊かな水と緑の地球環境を守ります。

一 私たちは、地球社会の一員として、世界の人々と交流し、相互の信頼を深め、協力連帯して、人類の福祉の向上に努めます。

一 私たちは、過去の歴史をかえりみて、ともに手を携えて平和な世界をつくり、相ついでやって来る新しい世代に引き継いでゆきます。

第五回東京都平和の日記念式典にあたり、私たちは、参加者の総意としてこのアピールを採択し、誓いも新たに、平和を心から願う気持ちと決意を、全世界の人々に訴えます。

一九九五年三月十日 東京都

An Appeal for Peace by the Citizens of Tokyo

Fifty years ago today, on March 10th 1945 Tokyo was reduced to ashes and a hundred thousand precious lives were lost overnight due to a large-scale air raid.

The same year, the dropping of atomic bombs in Hiroshima and Nagasaki revealed a tragedy never previously known to human beings.

The nature of various horrors and disasters brought forth by war is so cruel that no words of condolence are enough.

Half a century has passed since then. Most of today's citizens of Tokyo don't know the war. The city of Tokyo underwent a tremendous change. Once in ruins, Tokyo is now a metropolis full of energy and spirits. This became possible only because Japan has been at peace for the past fifty years.

Today, when global interdependence is stronger than ever and cooperation increasingly necessary, we cannot seek a safe and happy life without world peace.

In the midst of turbulence, the world today is approaching an era of great change in history. Conflicts caused by antagonisms between different ethnic groups and religions, hunger and poverty, refugees and victims, deterioration and destruction of the environment—these are only a few of many factors in today's world which endanger people's calm and fulfilling lives. To overcome distrust and antagonism and to seek a new international order is an urgent agenda of the entire world. Never before was it necessary to deal with this agenda regardless of differences in nationality, ethnic background, and culture.

Peace is a basic requirement, more important than anything else. Lasting peace, the fundamental principle of the Constitution of Japan, is the wish of everyone of us and is also a common goal for all human beings.

We pledge to take every opportunity to advocate disarmament and the abolishment of nuclear weapons, and to never repeat the horrors of war. We are resolved to deal with problems which endanger peace in everyday life and to face them resolutely and patiently.

- We will tell our children, who are responsible for the next generation of the horrors of war and the importance of preventing it, along with the memories of the large-scale air raid of Tokyo.

- We will respect the human rights of all people living on the earth, fight against discrimination, and create, with much love and compassion, a community which we can be proud of.

- We will review our daily lives in order to preserve the world environment with rich water resources and greenery.

- We, as members of the global community, will develop amicable relationships with other people of the world, strengthen the mutual trust, and, with cooperation and solidarity, make efforts to enhance the well beings of mankind.

- We will reflect upon our past history and create a peaceful world for the next generation to cherish.

On the occasion of the 5th Peace Day Commemoration of Tokyo, we adopt this appeal by the consensus of all present, thereby conveying to the world the renewal of our sincere resolution to achieve peace.

March 10th, 1995

